



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第9回例会(9月7日)
平成24年9月14日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次

新入会員卓話

「相場の格言は人生訓!？」



大和証券株盛岡支店長
山岸 晃浩 氏

株式相場の格言のなかには、遠く米相場の時代から言い伝えられてきたものが多く存在します。米相場での取引には、相場に対する心構えや投資家心理で株式相場に共通する点が多いため、株式相場で米相場の格言が好んで用いられています。

様々な格言があるのですが、株の売買だけではなく物事を決める際、判断に迷ったときや人生訓ともいえるような含蓄のある言葉が沢山あるのでいくつかを紹介したいと思います。
(アイウエオ順)

朝のこない夜は無い、夜明け前が一番暗い。

下落相場の時によく使われる格言です。確かに株でも人生でも良いことも悪いことも永遠に続くものではありません。景気も株価も必ず循環するものであるから、不変の真理を言った格言だと思いますが、自分が勝手に夜明け前だと思っても、実はまだ宵の口だったなんてこともあるので注意が必要です。

頭と尻尾はくれてやれ。

誰でも一度は聞いたことがある有名な格言だと思います。投資家なら誰でも大底で買って天井売りを理想とするでしょう。しかし確率から考えてそうなることは不可能に近く、大底買いや、天井売りを狙っていると、結局売買タイミングを逃してしまうことが多いものです。逃すだけならまだいいのですが、利益になっている株が損失になってしまったら、それこそ泣くにないと思います。

従って頭と尻尾は人にくれてやると言った、

余裕のある姿勢の方が結果的に上手く行くものであるという、投資家の限りない欲を売買のタイミングの難しさに絡めた格言であるといえます。
類) 一文惜しみは天底逃し。

余る余るは足らぬの始まり。

本間宗久の相場三味伝 61 章に出ている「足らぬものは余る、余るものは足らぬと申すことあり」から来た格言です。

本来の意味は米が豊作の年はみんな油断して手当てもしないで食べるから米が足りなくなる。不作の年は用心して貯めたり節約をして需給を調整するから逆に余るようになるという意味です。

現在の経済活動を置き換えて考えてみるとこんなところですよ。

「ある特定の商品が品切れになるほど、よく売れて儲かっていれば、我も我もと新規参入者が増え、一転過剰生産になり今度は余るようになる。逆に現在、余って困っているようなものは採算が悪く、撤退する人が多いので、何らかのきっかけで需要が増えれば、需給は非常にタイトとなる下地を作っていると考えられないか。」

従って商品市場や株式投資での逆張りの有効性を言った格言であります。

意地商いは破滅のもと。

相場の動きに逆らい下がった株を買い続け破滅した投資家は数知れません。時には意地を通

すことも必要ですが、どんな投資家にも精神的・物理的な限界点は必ずあり、それを超えて投資を続けることはできない。リスク管理の重要性をさりげなく言った格言です。

類) 下手なナンピンケガのもと

思い上がりは下り坂。

株に限りませんが、なんでも自分が上手いと思った時点で、向上心がなくなるので、進歩は止まってしまう。ことに相場での思い上がりなど、もつての他です。

類) 驕るなよ円い月夜も唯一夜。

勝つことのみを知りて負けることを 知らざれば害その身に至る。

初心者が柔道で最初に習うのは受身の練習で、相手を投げるのはその後です。しかし、こと相場に関しては、いかに儲けるか(相手を投げるか)と言うことに話が終始してしまいます。相場も柔道と同じで、最初に学ぶべきなのは、損切りや資金管理の仕方であって、儲けることではないと思っています。

なぜなら、株価が上がる下がるなど、所詮2分の1の確率なので、素人が適当に銘柄を選んで売買しても、儲かるときは儲かるのです。しかし、負けることも当然あるわけで、その負けたときのロスをいかに少なくするかが、大切になります。柔道で言う受身ということになるのでしょうか。

相場の世界は、負け方の上手い人が最終的に生き残り、利益を上げると言っても、言い過ぎではないと思います。

賢者は考えを変えるが、 愚者はけっして変えない。

「君子豹変」というと態度や意見がコロコロ変わる軽薄な奴という意味で使われています。日本には「武士に二言はない」なんて言葉があるように、こういう人間は軽蔑されます。

しかし、本来の「君子豹変」とは、君子(立派な人)は自分の過ちを改めるときには、豹の斑文がはっきりしているように、はっきりと過ちを認めるという意味です。

相場の世界も、日々環境が変わっているわけですから、最初の考えにいつまでも固執してい

ると、時に命取りにもなります。間違ったときは素直に「君子豹変」でよいのです。

心動けば相場に曲がる。

株を買うときは、1割上がったなら利食いしようとか、計画をたてると思います。しかし、実際にその株が勢いよく騰がり始めると、まだまだ騰がる、こんなところで利食いするのは、もつたいないと、欲が出てくるものです。その結果、当初のプランなど無視して買い増しまで、してしまいます。こういう状態になると、冷静な投資家ではなく、単なる欲の塊になっているので、相場観もだんだん曲がってくるのです。

相場の金と風の糸は出しきるな。

風揚げで糸を出し切るということは、風は自分の手にありながら、コントロール不能の状態になっていることを意味します。

相場でも資金一杯に買いポジションを持ってしまえば、後はひたすら上がるのを神に祈るだけとなってしまい、不測の事態や絶好のチャンスにも対応が出来なくなってしまいます。

資金管理の重要性を説いた非常によい格言です。

相場は相場に聞け。

マーケットが急落している時、政治家が意味も分からず、よくこの言葉を口にするので、知っている人も多いかもしれません。

株を買うという行為は(売りでもいいですが)自分なりの見通しや信念、願望が必ずあるはずです。しかし、市場は生き物です。昨日まで正しかったことが、今日は間違いになっていることもありますし、その逆もあります。

相場は自分の信念を通すことも必要ですが、同時に自分1人で相場をやっている訳ではないことを自覚しなければいけません。自分のちっぽけな願望や信念など、市場は歯牙にもかけてくれません。市場の囁きに耳を貸す柔軟性、謙虚さも必要なのです。

損して休むは上の上。

株式投資をギャンブルと言うのは抵抗があるが、ギャンブル的要素があるのも否定できません。競馬などで負けが続くと、つい頭に血が昇り、次で一気に取り返そうと言う心理状態になります。しかし、そう言う状態の時は、金と一

緒に現状を冷静に分析する能力も無くしているので、傷口は余計大きくなるのが通例です。損をした後には無理に取り返そうとせず、頭を冷やすためしばし休戦し、次の戦いに備え準備をするのが得策です。

一寸待て、飛びつき買いと狼狽売り。

交通安全標語みたいな格言ですが、何の下調べもしないで予定外の作業（飛びつき買い）をするのは、仕事でも、相場でも、思わぬ事故（損失）を起こす要因となるということです。

また突発的な事故が起きてしまった場合、慌ててパニックになると、事態は余計悪くなります。

始めから損を覚悟で相場せよ、 思案すぐれば時機を失う。

値動きのあるものに投資する以上、損を覚悟など当たり前の話です。相場だけに限った話ではありませんが、やる前からあれこれ考え過ぎると、時機（チャンス）を逃してしまうのは、その通りでしょう。あまり考え過ぎるのも意味の無いことです。

兵は勝つことを貴び、久しきを貴ばず。

これは孫子の兵法 作戦篇にある言葉です。ここでいう兵とは「戦争」のこと。すなわち、戦争は勝つことが大事で、長期戦、泥沼化は避けろということです。

初めから長期投資を覚悟で買い始めたのなら、何もいうことは有りません。しかし、そう云う人は極めて稀で、自分が買った株が予想外に下がってしまって、売るに売れず長期戦になってしまう人の方が、圧倒的に多いでしょう。

戦争に金や時間というコストがかかるのと同じように、投資にもコストがかかっています。投資期間が長期化し、巧くいかなければ、それは時間損失、機会損失となり投資家に降りかかってきます。孫子の時代ですら、戦争には金がかかっていたのです。ですから、まず泥沼化は避けなければならないし、結果、勝ったとしても、国の財政が疲弊し、死傷者を多く出したりは、採算にあわないのである。まして負けるようなことになれば、最悪の事態に発展します。戦いに効率性を求めるのは、投資でも同じではないでしょうか。

見切り千両、損切り万両。

損失は相場をやる上で絶対避けられない必要経費みたいなものです。その経費を多く払うか、少なく済ますかは、経営者（投資家）の力量となります。損切りが難しいなどと言っているうちは経営者失格ともいわれます。

損切りをした後、株価が戻ると酷く損した気分になりますが、それは結果論ですし、些細なことです。もし何年も株価が低迷すれば、含み損は増え続ける一方ですし、精神的苦痛、機会損失は大変なものになるのですから。

麦わら帽子は冬に買え。

有名な逆張り系の格言で、特に説明することはありません。人が注目する前に買えと言うことです。

人の行く裏に道あり花の山

山へ花見に行っても、多くの人といっしょでは心から桜を楽しむことはできない。山には裏道もあるからそっちへ行けば、ゆっくり花見もできる。およそ株式投資の経験がある人なら、誰でも知っている有名な格言です。人は、相場の人気に左右されやすい。が、多くの投資家が、強気一辺倒で、買い人気に市場が沸き返っている時に人やらない利食いをそとやり、相場が下がって総弱気のときに、安値で買っておけという意味で、人気の裏を行くのが成功の道、と説いています。考えてみると、総強気のときは、相場は天井圏、逆に、総悲観のときは底値圏である。この格言どおり、安い時に買って、高い時に売ればよいのであるがそうは問屋が卸さないのが、また相場なのです。反対の格言は「赤信号、皆で渡れば怖くない」？

もうはまだなり、まだはもうなり。

相場の大天井、大底がわかれば、誰でも、株式投資で成功する。どんな尺度で計っても予測できないところに、魅力があるのかも知れないが、先人はこの格言で、市場のムードがもう天井だろうといった段階では、まだまだ高値がある。反対に、まだまだ下げそうだというムードの時には、大底をついており、買いそびれると、チャンスを逃がしてしまう、と説いています。いずれにしても、投資家は人気に惑わされないことが肝心です。

善く戦う者は、これを勢いに求めて、
人に責（もと）めず。

孫子の兵法（兵勢篇）の言葉。戦のうまい者は、まず勢いに乗ることを重視し、兵に過度の期待をしない。

戦に限らず勢いというものは侮れない。相撲でも勢いに乗っている力士は、例え格上相手でも思わぬ力を発揮するものである。相場でも上昇・下降トレンドというものがあり、これに勢いが加わると、理論や理屈を超えてどうにも止めることは出来なくなる。相場も形を変えた戦ですから、勢いに乗ることは重要といえます。

相場は悲観の中に生まれ、懐疑の中で育ち、楽観の中で成熟し、幸福感の中で消えていく。

アメリカの著名投資家ジョン・テンブルトン

の言葉です。言葉のままの格言なのであまり説明は必要ないかもしれませんが、投資家の心理を大変うまく表していると思います。今の相場はひょっとしたら悲観の真っ只中かもしれません。

以上いくつかをご紹介させていただきましたが、株式投資は本来、客観的な情報に裏付けされた合理的な行為でなければなりません。にもかかわらず多数の投資家が古い格言を口にするのは、投資行為に占める心理的要素が大きいためです。最終の決断に際して、何かに拠りどころを求める、その役目を格言が果たしているといえそうです。何か物事を決める時に参考にさせていただければとご紹介させていただきました。ありがとうございました。

例 会 報 告

第9回例会
平成24年9月7日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・ 司 会 藤村文昭会長
- ・ ソング 奉仕の理想
- ・ 国歌 君が代
- ・ 入会祝 米内正君。
- ・ 誕生祝 福田荘介、長澤茂、駒木進、大見山俊雄君。
- ・ 結婚祝 矢後勝洋、藤村文昭、加藤正幸君。

- ・ 会長報告 藤村文昭会長
- ・ 幹事報告 佐藤重昭幹事

【ニコニコ BOX】

- ◆ 山岸晃浩君…本日卓話をさせていただきました。つたないお話にお付き合いいただきありがとうございます。
- ◆ 米内 正君…①鈴木貞雄先生のご紹介で、盛岡ロータリークラブに入会いたしました。その間各界の代表者の方々とお付き合いさせていただき、人間として成長したと思います。感謝を込めてニコニコいたします。

②予防中心の歯科医療を心掛けてから診療室が忙しくなり、この夏の暑さにもまげず、患者さんの予防およびメンテナンスを実施しております。最近では地域の住民の方々の健康への意識が大いに高まってきていると感じられます。このことは医療人としてたいへん嬉しく思いニコニコいたします。

● メークアップ

盛岡西R.C.=市丸君。盛岡東R.C.=熊谷(祐)君。盛岡滝ノ沢R.C.=平井君。

出席報告 □ 会員数 /62 名 □ 出席数 /35 名 □ 出席率 /64.80% □ 前々回修正出席率 /79.6%

プログラムの
お知らせ

- ・ 9月14日(金) ゲスト卓話 漆原栄美子様 (民謡歌手)
「生き生き歌って楽しい人生」
- 21日(金) ゲスト卓話 前田千香子様 (焙茶工房しゃおしゃん主宰)
「気仙茶の再生に向けて」
- 28日(金) ゲスト卓話 細川克也氏 (岩手日報社 報道部次長)
「ロンドン五輪取材して」

- 本号編集担当 / 谷藤 和彦
- 次号編集担当 / 嘉本 孝志